

みなみかぜ便り

新世代こうべ 2014年8月20日発行

〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 市役所1号館26F ●TEL 078-322-6361 ●FAX 078-322-6128 ●携帯 080-6150-0373



皆さん、こんにちは。私が、お天気キャスター（気象予報士）等のテレビ出演から神戸市会議員に転身して、3年が経ちました。一期目の最終年である今年度は、神戸の魅力である「みなと」と「観光」に力を入れたいと思い、引き続き産業港湾

常任委員会委員として活動して参ります。また、神戸の魅力創出のための提言書を作り、実現に向けて取り組むことを目的として新設された「未来都市創造に関する特別委員会」の委員となり、議員間討論等で積極的に政策提案を発表しております。とても有

天下りポスト確保のための 外郭団体は即廃止すべき！

意義な委員会となっておりますので、是非注目して頂きたいと思っております。ところで、最近よく子育て世代のファミリーから、「子育てに関するサービスが充実している西宮市や三田市に引越した」という話を聞きます。皆さんが行政サービスでよく比較されるのが、「子どもの医療費無償化」についてなのですが、現行2歳児までしか無料に出来ない神戸市が、他都市並に中学卒業まで拡充するなど、皆さんの暮らしを豊かにする行政サービス充実には、財源が必要ですね。そのため、私は、皆さんの納められた税金が、適正に、かつ有効に使われているのかを厳しくチェックし続けております。今回、皆さんにお伝えしたいテーマは、「外郭団体の破産責任・天下り人事」についてです。



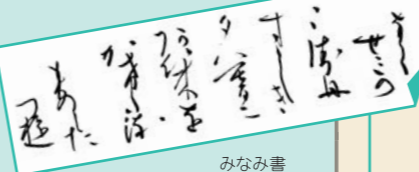
上原みなみ

- ◎神戸市会議員
- ◎産業港湾常任委員会委員
- ◎未来都市創造に関する特別委員会委員
- ◎NPO法人「北区に住んでいるって大声で言い隊」理事長
- ◎気象予報士・環境再生医・書道師範

プロフィール

1969年3月16日神戸市兵庫区生まれ、北区在住。夢野小、夢野中、鈴蘭台高、神戸大学卒。サンテレビでのお天気キャスター、夕刊フジでの連載コラム執筆、J:COMキャスターを経て、2011年統一地方選挙で6033票いただき、神戸市会議員（北区）となる。趣味は書道、ケーキ作り。

季節の書



みなみ書

なくせみの（こえ）衛も
あ（阿）き（幾）を
かけ（希）た（多）る（流）
もり（利）のしたつゆ（遊）

ブログもチェック!

上原みなみ 検索

11年間でマイナス52億円という 大暴落の原因は??

神戸市の回答

神戸市の外郭団体や市の施設として所有する建物は、市庁舎と同じ扱いとなるので、評定方法としては「積算価格」が使用される。平成25年時点で、この評定法で算定するとホテル棟は約20億円となる。しかし、実際は昨年度に民間への売却が決定していたため、「収益価格（D

（C法）」が用いられ、評価額は7千万円台となった。

ホテル棟の土地は神戸市からの30年定期借地となり、借地料の年間5千万円×30年＝15億円が入るとともに、今後20年間で予測される設備改修費20億円が不要になった。評価額を上回る価格で購入してもらえて良かった。

上原指摘

収益還元法とは、（総収益-総費用）÷還元利回り（0.8%:地域性などを勘案して査定）で試算されることから、宿泊者やレストラン・温泉利用者を増やし総収益を上げるほど、また、役員報酬をカットするなど総費用を抑えるほど、評価額は高くなる。これらの経営努力なしに、市の財産を安く評価され、売却に至った事については、反省すべきである。

実際、(株)シーエイチアイが購入して数ヶ月で、ホテルの稼働率は60%⇒65%にアップしている。

フルーツフラワーパークのホテル棟について

時期	内容	金額	不動産評価額
平成5年	(株)神戸ワインにより設立される	86億円	—
平成14年	神戸市が(株)神戸ワインより買い戻し	54億円	—
平成25年	神戸市が(株)シーエイチアイに売却	2億円	7,716万円

52マイナス!

<お知らせ①> 箕谷第一駐車場の一部用途変更について

神戸市道路公社(神戸市の外郭団体)が管理する箕谷駐車場(新神戸トンネル入口付近)に関して、利用率が高い時でも50%程度であることから、以前から神戸市会(外郭団体に関する特別委員会・企業建設常任委員会)においても有効利用を検討する予定であるとの考えが示されてきました。

そこで、神戸市道路公社は箕谷第一駐車場の250台中170台分の土地(神戸市道路公社所有)を商業目的で利用してもらおうと公募を行ったところ、スーパー「マルハチ」に決定しました(賃貸料:年間2,400万円)。平成27年度オープン予定で、従来規模の駐車台数は確保される見通しとのことです。

<お知らせ②> 上原みなみの市政報告会開催

日時 平成26年12月21日(日)午前9時30分～11時30分

場所 すずらんホール多目的ホール

●お申し込み・お問い合わせ●
新世代こうべ TEL.078-322-6361 Mail shinsedai.kobe@gmail.com

平成25年に神戸市立フルーツフラワーパークのホテル棟が、(株)シーエイチアイに売却され、今後はホテル棟以外の園内を農業振興施設として再編することとなりました。これに伴い、これまで指定管理事業者として運営を行ってきた(株)神戸ワイン(昭和59年に設立された神戸市の外郭団体)を清算することとしましたが、そのためには神戸市が(株)神戸ワインの運転資金不足を補うため、平成12年以降毎年短期貸し付けを行っていた30億円(平成25年度融資金)についての債権放棄を議決する必要がありました。私は、この議案(第52号)について、質疑を行いました。

(株)神戸ワインへの短期貸付金の推移

年度	貸付金
H12	23億円
H13	27億円
H14	33億円
H15	32億円
H16	
H17	毎年30億円
〃	
H24	

平成12年から市の貸付が開始。(それ以前は、民間銀行からの融資が行われていた)

議案質疑

(平成26年6月17日)

経営破綻の責任は全く取らず、
 他にも市民負担だけを強いるのか？

上原 (株)神戸ワインをはじめ、経営状況が改善せず、単年度赤字が続いたり、累積赤字が減らなかつたりする外郭団体において、神戸市はなぜ、経営破綻寸前まで経営者が元市職員(再就職者)のままなのか？

鳥居副市長 外郭団体は市が出資をしているので、我々の方で監督・指導する立場であるが、行政と民間人登用のそれぞれのメリットがある。トータルとして外郭団体の経営が安定して健全な活動等行えるよう、我々としても注視して指導・助言、必要な支援をしていく必要があると考える。

上原 市のOBが就任してメリットがあったのか？

岡口副市長 その会社の状況の目的に合った人材において、役員等には就任していただいている。非常に幅広い行政経験を含めて活躍していただいているので、その中でこの度の神戸ワインについても、経営改善の努力という事に取り組んでいただいている。もちろん、結果としてこのような事になったのは極めて残念でもあり、結局そういう成果はでなかったという事にはなるが、本人の持っている能力を十分に発揮していただいて、経営努力をしていただいた事に間違いないと考える。

いないと考える。
上原 経営改善できずに倒産させてしまったという市のOB社長を就任させた人事は、元市長の責任ではないのか？

岡口副市長 基本的な職員の外郭団体等の就職につきましましては、あくまでも各団体の要請により適材が派遣されている。

上原指摘
 経営破綻した外郭団体の役員報酬は一度もカットされていなかった!! 固有職員の給与は削減されているのに...

上原 (株)神戸ワインの代表取締役社長は歴代神戸市のOB職員であるが再雇用されたOB職員の給与(局長級の市OBは年間報酬680万円、表1参照)は全く減額されていない。固有職員のリストラ(1人あたり平均約17%給与削減・人材マネジメントシステム導入による)は行いが、経営者責任を問われるべき市のOB職員が務める役員待遇は安泰。そして30億円の市民負担により清算というの、あまりにも市民の皆さんに理解されないことだと考えるが如何か？

岡口副市長 神戸ワインにおいて、非常に経営状況が苦しい中であったので、その経営努力も期待して派遣(再雇用)されたものである。結果はこのような残念な形になったが、当該職員については出

来る限りの経営努力はされたものと考える。

上原 融資を行う際というのは本当に厳しい(審査がされる)ものである。神戸ワインについては、これほど経営破綻が見えているのに役員報酬も削減しないで、十分な最大限の経営努力をしたと神戸市(貸付側)が判断するという事は、どういうことか？

久元市長 上原議員の指摘には理解できる面もあるが、神戸ワインについては、純粹に完全な民間の経営判断が出来たのかと言うと、そこは第三セクターに共通するところはありますが、そうでもなかったと思う。やはりもっと幅広い公益上の目的、それから純粋な民間企業であれば撤退できる判断があったかもしれないが、ホテルを止めるとか観光事業を縮小するとなると、その地域への影響もある。そういうことから言うと、なかなかこの会社の判断だけでそう出来なかつたという事もあるので、その精算に至った原因を経営陣だけに追及するというのは、いささか酷な面もあると思う。

上原 外郭団体の経営破綻は、やはり本来まず経営者としての責任を問うべきであり、外郭団体の主要役職を元副市長とか神戸市からの天下りや市職員が占めるといふ神戸市OBの責任なき役員処遇は抜本的な見直しが必要だと考える。



神戸市の外郭団体について

行財政改革2015の中で、「昨年度までに12の外郭団体が削減でき、目標以上の成果を挙げた」と言いますが、実態は、出資・出捐比率を外郭団体の定義である25%未満に引き下げることでみなし削減となったのが4団体、さらに経営破綻により負債を残して倒産したのが3団体、神戸市からの借入金を資本化することで民事再生という形を取った海上アクセス(株)を含め、今年度清算が決定した(株)神戸ワインに対する債権放棄を合わせると、神戸市から外郭団体への貸付金が返済されない、または損失補償の実行といった、経営破綻に伴う市民負担は平成23年度以降、543億円となります。

	外郭団体	(出資等引下げ)	時期
みなし削減	(株)国際会館	25%→24.9%	H23
	たった0.1%の出資引下げにより外郭団体の定義から外した		
	(株)クリーン神戸リサイクル	25%→21.8%	
	93%が神戸市環境局OB職員で構成され、神戸市から廃棄物処理業務等の委託料3.8億円/年が支出されている。		
市民負担倒産	(財)兵庫県予防医学協会	34%→13.3%	H25
	神戸地下街(株)	44.4%→22.2%	
	(市民負担額)		H24
	神戸市住宅供給公社	257億円	
	神戸航空交通ターミナル(株)	7.2億円	
神戸マリンホテルズ(株)	107億円		
H25	海上アクセス(株)	142億円	
	(株)神戸ワイン	30億円	H26

表1 神戸市の外郭団体報酬基準(上限と言いつつ、これが現状支給額)

区分	外郭団体での役職	年間報酬
元市長・副市長	社長・理事長	960万円
		680万円
元局長級	専務・常務	640万円
	取締役・理事	600万円
	重要な施設長	
元部長級	専務・常務	520万円
	取締役・理事	500万円
	施設長等	480万円

この続きは4ページを!!

